

実践報告

札幌市立北野台中学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習の研究」

- 北海道の先住民族であるアイヌ民族の歴史や文化、生活様式について理解する。
- 自分たちとは異なる文化や価値観に触れることで、互いに尊重し合い、よりよい社会をつくらうとする態度を養う。

(2) 実践の内容

【実践①】「札幌ウポポ保存会」の方々との交流までの学習について

○ ねらい

アイヌの歴史や文化、生活様式等について理解し、現在の北海道でアイヌ民族がどのように暮らしているのか理解する。

○ 学習内容

- ・ 地理的分野及び歴史的分野で学習した内容を整理し、アイヌ民族の歴史や衣食住を中心とした生活様式を理解する。
- ・ 「イランカラプテ こんにちはアイヌ文化」を見て、現在のアイヌ民族の暮らしについて興味をもったことをまとめ、異文化への関心を高める。

【実践②】「札幌ウポポ保存会」の方々を招いた体験的な学習について

○ ねらい

- ・ アイヌ民族の方々との交流を通して、文化の多様性を理解し、自分たちとは異なる文化や価値観を尊重しようとする態度を養う。
- ・ アイヌ民族が受け継いできた伝統的な文化を、体験的に学ぶ。

○ 学習内容

- ・ アイヌ民族の歴史や文化について講話を聞く。
- ・ ムックリやトンコリ等の器楽演奏を鑑賞する。
- ・ アイヌ民族舞踊の輪踊りや輪唱を鑑賞し、輪踊りを体験する。



【写真：アイヌ民族の方による講話の様子】

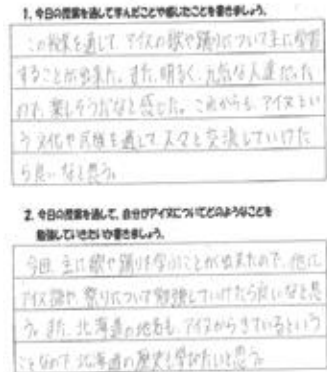


【写真：生徒全員が参加した輪踊りの体験】

(3) 研究のまとめ

① 成果

- 生徒にとって、アイヌ民族の歴史や文化に触れることのできる貴重な機会であり、自分たちで体験することで高い学習効果が得られた。
- ムックリやトンコリによる器楽鑑賞、輪踊りの鑑賞と体験を通して、多くの生徒が楽しそうな表情で学習に取り組んでいた。社会科の授業に対して学習意欲があまり高くない生徒も輪踊りを真剣に踊っており、意欲的に取り組むことができた。
- 多くの生徒が体験的な学習の終了後に、「もっとアイヌ民族について知りたい」と話しており、自分たちとは異なる文化への関心が高まっていた。また、アイヌ民族の文化や生活が自分たちの予想以上に身近なところに存在することを学び、アイヌ民族に関する学習を通して、異文化を尊重しようとする姿勢が見られた。



② 課題

- アイヌ民族の歴史は授業でも扱うが、アイヌ文化について様々な視点から調べる時間をあまりとれず、十分な学習時間を確保できるとはいえない。限られた授業時数の中で、人権について学年や単元等も考慮しながら系統的に学習を進めていく必要があると感じた。
- アイヌ民族を軸とし、体験的な学習を通して異文化理解への関心が高まった。多文化理解を尊重する意義を学ぶことができた一方で、今回の体験を通じて人権教育に焦点化する機会を設ける必要があると感じた。
- 人権に関する学習や取組は社会科に限らず、道徳や学級活動などすべての教育活動と関連付けながら、学校全体で取り組む必要があると感じた。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- アイヌ民族の文化や生活について、文献やインターネット、映像資料等を活用して学習してきたが、異文化理解を通して人権教育をより深く理解するためには体験的に学ぶことが効果的である。
- 本校の教職員が今回の交流の様子を参観していた。子どもたちのみにとどまらず、教職員や保護者・地域の方々を含め、学校全体で人権教育について取り組んでいく必要があるのではないか。